

# 地域とつながる福祉教育

～ともに生きる社会に向けて～

≫ ふくしについて

≫ 高齢者疑似体験

≫ 高齢者日常作業体験

≫ 高齢者訪問

≫ 障がいについて

≫ アイマスク体験

≫ 手話体験

≫ 車いす体験

≫ 人権学習

≫ 見守り活動

≫ 地域交流

≫ 防災学習

≫ 募金のゆくえ

## ～ 目 次 ～

1. 「学校」「地域」「家庭」がつながる福祉教育 .....	1
2. 相談から実施までの流れ .....	4
3. 実践！福祉教育プログラム	
(1) 福祉の理解を深める「ふくしって何だろう」 .....	6
(2) 高齢者の理解を深める「高齢者疑似体験（歩行）」 .....	8
(3) 高齢者の理解を深める「高齢者疑似体験（日常作業）」 .....	10
(4) 高齢者の理解を深める「高齢者疑似体験（買い物）」 .....	12
(5) 高齢者の理解を深める「高齢者訪問・交流」 .....	14
(6) 障がいの理解を深める「障がいって何だろう」 .....	16
(7) 障がいの理解を深める「アイマスク体験」 .....	18
(8) 障がいの理解を深める「手話体験」 .....	20
(9) 障がいの理解を深める「車いす体験」 .....	22
(10) 人権の理解を深める「シトラスリボン」 .....	24
(11) 地域の理解を深める「見守り活動とは」 .....	26
(12) 地域の理解を深める「地域を知ろう！つながろう！」 .....	28
(13) 災害の理解を深める「防災について」 .....	30
(14) 赤い羽根共同募金の理解を深める「どうなっているの？募金のゆくえ」 .....	32
4. 物品の貸出について .....	34
5. 福祉教育プログラム申込様式 .....	36
6. 集めてできるボランティア .....	38
7. ボランティアチャレンジ in にいはま .....	39

# 1. 「学校」「地域」「家庭」が つながる福祉教育

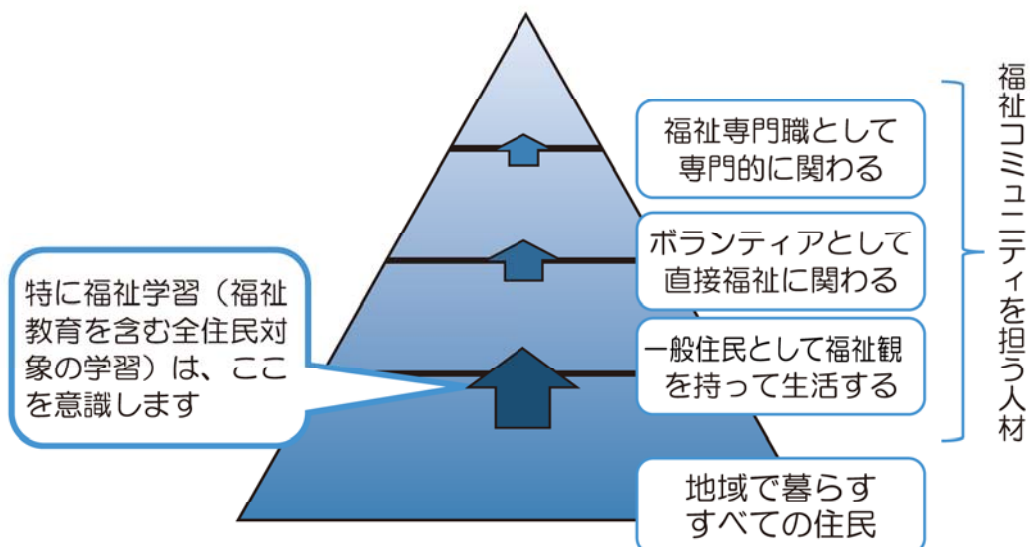
● 社会福祉 とは、障がい者（児）や高齢者のためだけのものではありません。社会福祉はすべての人々が毎日の生活の中で幸せを感じられる社会を目指しています。福祉とは「ふだんの 暮らしの しあわせ」を実現させるための取り組みであり、福祉を知ることが自分の暮らしの幸せを理解するはじめの一歩となります。

● 近年の社会 は、コミュニティの概念が薄くなり、地域の福祉力が弱まっていると言われています。携帯電話やSNSでのコミュニケーションなど、大人だけでなく、子どもたちの世界の関係性も変化しています。その中で、人とふれあう機会が少なくなり、自分の暮らす地域への関心が薄れていることが懸念されています。

● 福祉の向上に大事なこと は、地域で暮らす人たちが、地域に愛着を持ち、支援が必要な人たちに対して、その気持ちに寄り添い、「支え合う」ことが大事だという価値観を育むことです。これを「福祉観」と呼び、これは命の大切さ、思いやりの心、お互いを認め合い、排除しない仲間づくりといった教育の理念とも共通します。

社会福祉協議会では、様々な機会を通じて子どもたちをはじめ多くの人に、この考え方を伝えていきたいと考えています。

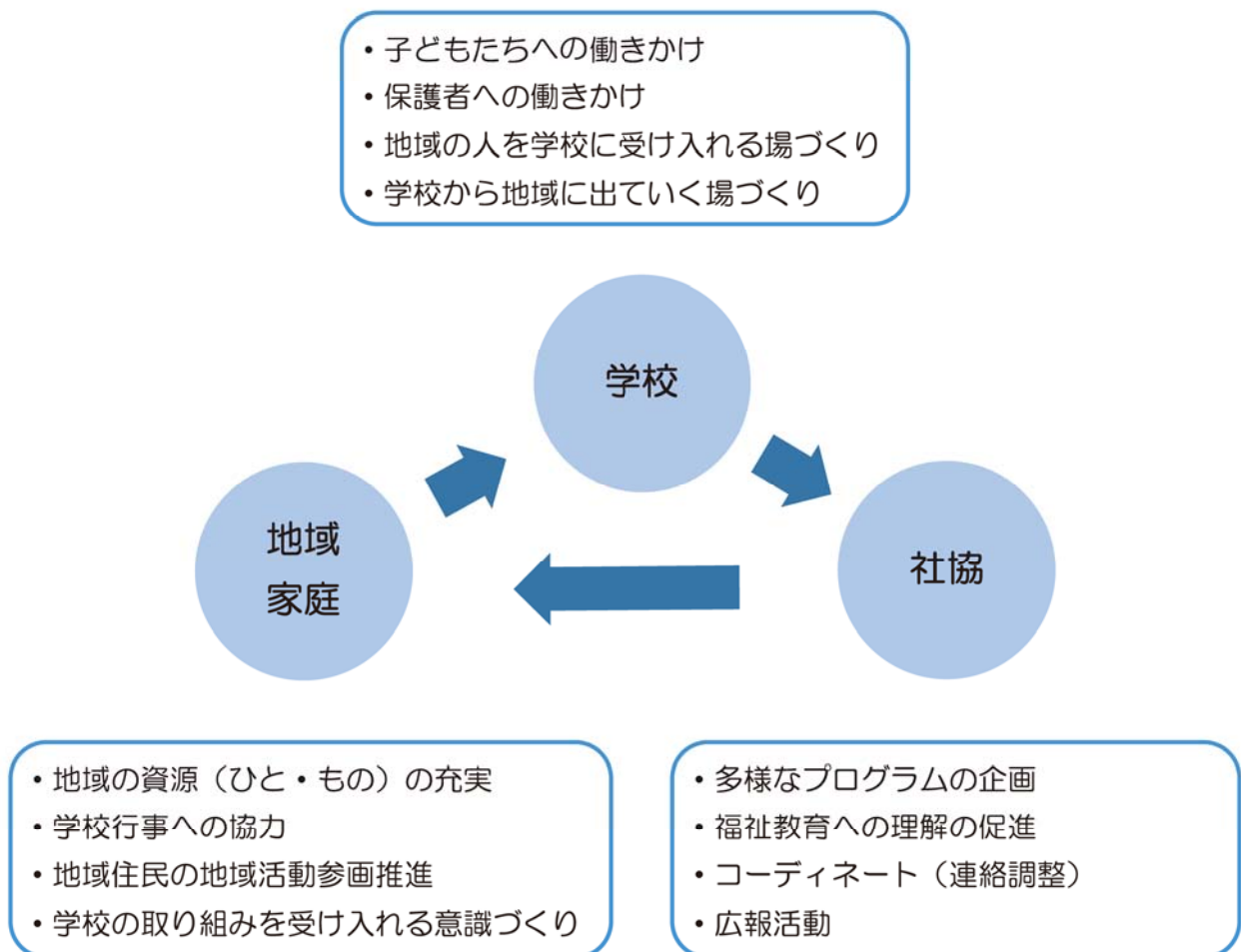
特にこれからの地域を担う子どもたちの「福祉教育」が非常に重要であると考えます。





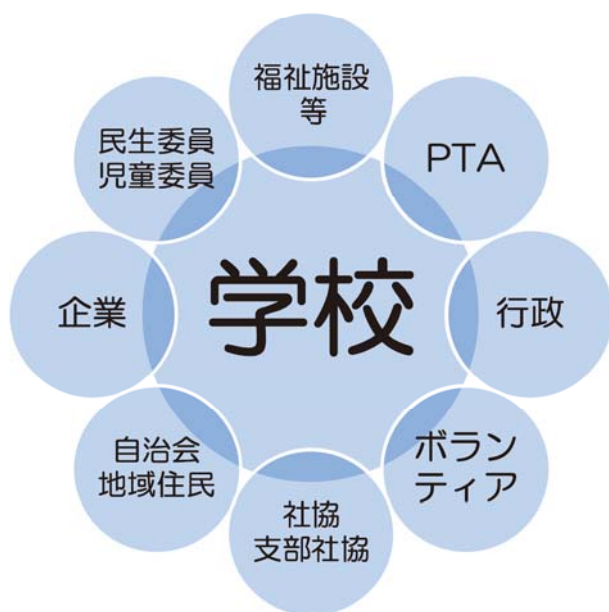
● 新しい「学習指導要領」では、今後どのような社会変化が起ころうとも、子どもたちが主体的に考え、自ら判断して行動することでそれぞれが思い描く未来を実現できる「生きる力」を育む教育を目指しています。その基礎となるのが「社会に開かれた教育課程」の実現であり、社会のつながりの中で学ぶことで、子どもたちは、自分の力で人生や社会をよりよくできるという実感を持つことができます。（文部科学省資料より）

● 社会福祉協議会（社協）とは、地域福祉を推進することを目的に、社会福祉法に基づいて設置された民間団体です。社協は地域の様々な社会資源とつながりを持っており、地域のつなぎ役を担うことができます。学校と社協が相互理解を図り、家庭でも理解を深めていただくことで、効果的な福祉教育の推進につながります。





- コミュニティ・スクールについても、社協と連携することで、地域の様々な機関と共に、多様な学習機会につなげることができます。



## 2. 相談から実施までの流れ

※年度当初に、年間計画を立てていただき、ご相談していただくと、ゆとりをもって、充実した計画が立てられます。少なくとも実施する1カ月前にご相談ください。

### 相談

- ・学習のねらい、希望内容、日時、人数、これまでの学習内容を確認しながら、一緒にプログラムを考えていきます。

### 調整

- ・社協で講師や団体の調整を行い、決定後ご連絡いたします。
- ・講師派遣依頼書をご提出いただきます。

### 打合せ

- ・担当の先生と講師が当日の予定や準備品などの打ち合わせを行います。

### 体験

- ・当日、ケガ等に注意しながら、体験をすすめます。

### 振り返り

- ・体験を通して感じた一人ひとりの「気づき」を振り返り、さらなる発展へつなげます。終了後に調べ学習や内容の振り返りをすると効果的です。

### 問合せ

社会福祉法人 新居浜市社会福祉協議会 新居浜市ボランティア・市民活動センター  
〒792-0031 新居浜市高木町2番60号 新居浜市総合福祉センター3階  
電話・FAX 0897-65-1009 E-mail v-center@n-syakyo.jp  
HP アドレス <https://www.n-syakyo.jp/>

## 生じやすい問題への対処法



Q 体験学習により偏見をもってしまう。

A 福祉教育は、単発的な疑似体験のみになってしまうと逆効果（偏見など）を生み出してしまう可能性もあります。事前学習・体験学習・振り返り学習の連続性を持たせた授業を行うことでより効果を発揮します。

Q 「～してあげる」という意識になりがち。

A 「支援してあげる」という考えは平等ではないこと、同じ人間として共に生きるために一番大切なのは、他人を差別したり偏見をもたない、心のバリアフリーだという意識が必要です。

Q 体験後の感想が「楽しかった」になってしまっている。

A 「楽しかった」意見はマイナスではありません。学習した内容を振り返ることで、支援を必要としている人が何を求めているのかを正しく知り、共感することが重要です。ワークシートや感想文などの振り返り学習、また、施設訪問なども合わせると実践的な学習に繋がります。

Q 単発的になりがちで継続性がない。マンネリな活動になってしまう。

A ボランティア・市民活動センターにご相談ください。先生の意向を伺い、一緒に授業を考え提案します。また、講師への依頼や連絡調整も行います。

Q 講師のタクシー代など費用の支出が予算の関係でできない。

A 新居浜市内の各小・中学校、高校には児童・生徒ボランティア活動普及事業助成金（P.37）が支給されています。講師のタクシー代などの費用も助成金の支出対象になりますので、ぜひご利用ください。

Q 福祉教育の教材・教具がない。

A ボランティア・市民活動センターには、車いす・高齢者疑似体験セット・アイマスク・難聴体験セット等の装具や点字器・DVD・図書などがあり、貸し出しを行っています（P.34）。

Q 他機関のどこに連絡をすれば良いか分からない。

A 関係機関との連絡や、講座、講師依頼における日程の調整等も、地域との関わりを持つボランティア・市民活動センターにお任せください。



### 3. 実践！福祉教育プログラム

# 1

福祉 の理解を深める

## ふくしって何だろう

学習例	福祉の専門職の方から「ふくし」や福祉の仕事について話を聞く		
時間	45～60分	場所	教室
講師	福祉施設職員、社会福祉協議会職員		

### 1

#### ねらい

「ふくし」とはどういう意味なのかを体験を通して感じ、「ふくし」を身近なものとして捉える。肯定的なイメージをもって、今後の学びの基礎とする。また、福祉に関わる様々な職業について知り、福祉に興味をもってもらう。

### 2

#### 体験

座学により新居浜市の福祉の現状を学び、これからの地域に必要なことを理解する。  
簡単なワークショップを通して、他人同士の関わりや周りの人へ対する配慮の必要性を体験する。  
実際に福祉の現場に従事している講師との対話的な講義を通じて、福祉の仕事について学ぶ。

### 3

#### 振り返り

自分も地域の一員であることを理解し、自分なりの「ふくし」について考え、それぞれのイメージを発表する。  
身近なことから自分ができることを見つけ、取り組んでみる。

# プログラム



時間	内容
5分	導入
10分	「ふくし」についての話
10分	グループで簡単なワークショップ（無表情で話す、片手で輪ゴムを外す など）
10分	福祉の仕事について説明・質疑応答
5分	感想（「ふくし」のイメージや自分にもできそうなこと）
5分	まとめ（講師のコメント）

## 【備考】

対象の学年によって、福祉の仕事の部分を増減してよいと思います。小学生なら「ふくし」のイメージづくりに重点を置き、中学生の場合は、将来の進路の参考に、説明と質疑応答の時間を増やすこともできます。

# 講師からの一言



高齢者が住み慣れた場所で元気に過ごすためには、公的な制度や仕組みだけでなく、地域の助け合いも大きな力となることを実感しています。

地域の助け合いには若い力も必要です。「福祉」と「地域」、そして「地域の中の自分」ということを学び、福祉を大げさに考えることなく、“あっ、これならできる！”という小さな勇気の種蒔きを続けることで、色とりどりの花が咲き、大きな実となります。それこそが『豊かな心で幸せをつむぐ』という新居浜市が目指す将来都市像にも通じる、幸せのバトンであると思います。

生徒一人ひとりが、自分たちの町をもっと好きになれるきっかけとなれば嬉しく思います。

社会福祉法人 すいよう会 アソカ園 田中 映 氏

# 児童・生徒の感想



中学2年生	<p>福祉の授業は何回もしてきたけど、こんなに詳しくはしていなかったです。図形を言葉だけで伝えたり、無表情で話す体験をしたり、助け合いのワークショップなどをして、「助け合い」の大切さがより分かりました。</p> <p>今回の授業で一番心に残ったことは、“小さな勇気が大きな輪”ということです。お年寄りや体の不自由な人がもし困っていたら、「何かお手伝いできることはありますか？」と、本人の前から、同じ目線で大きな声でゆっくり、はっきりと言いたいと思います。「お互いさま」「こちらから」を大切に、もし親切なことをしてもらったら、「ありがとう」と言いたいと思います。まずは大きな声であいさつから頑張りたいです。</p>
中学2年生	<p>「お互いさま」や「ありがとう」、「こちらから」という言葉を大切に、身近な人への感謝の気持ちを伝えていこうと思いました。元気なあいさつをきちんとすることにより、自分も相手もいい気持ちになると思います。なので、私は自分からあいさつをし、大きなつながりを作っていきます。「何かお手伝いできることはありますか？」の一言で、困っている人を助けることができるので、困っている人を見かけたら、勇気を出して、声をかけてみようと思います。人の役に立つということはとても良いことだと思います。</p>

# 2

高齢者 の理解を深める

## 高齢者疑似体験（歩行）

学習例	高齢者疑似体験セットを装着し、普段使っているところを歩く。また、階段や廊下などを利用しながら高齢者に対する介助の方法を学ぶ。		
時間	45分（クラス半数で行う場合） 次頁の日常作業体験と合わせて行うことをおすすめします。		
講師	ボランティアセンター職員	場所	校内、学校外周など

### 1 ねらい

疑似体験を通して体の不自由な方や高齢者の立場になって考えると同時に、高齢者の心身の変化や生活の現状について理解し、高齢者を肯定的にとらえ関わろうとする。

### 2 体験

事前に時間、人数、目的等に応じてコースを相談する。当日は、グループに分かれ、順番に装具を身に着け、そのコースを歩く。

階段の昇り降りでは、特に身体の重さを感じてもらう。足元につまずくものを置かないようにするなど、体験の中での気づきも大切にしてもらう。

### 3 振り返り

体験を通じて気づいたことや考えたことを共有し、今後の生活に生かしていく。

（例）高齢者施設を訪問し、実際に高齢者と交流する。

（例）ワークキャンプ※に参加する。

#### ※ワークキャンプ（市内中学生・高校生対象）

新居浜市社会福祉協議会では毎年ワークキャンプ事業を行っています。

ワークキャンプとは市内の福祉施設や介護保険施設等での学習体験を通じて、社会福祉への理解と関心を高め、ボランティア活動の普及や浸透を図る目的で開催しています。

実施時期：8月上旬

期間：2泊3日（体験施設で宿泊）

場所：市内の社会福祉施設、介護保険施設等

対象：新居浜市社会福祉協議会指定の福祉協力校の生徒（市内中学生・高校生）

将来、福祉や医療に興味がある方や、福祉を理解したい方の申込みをお待ちしています。



# プログラム



時間	内容
5分	導入
10分	装具の使用方法の説明
25分	歩行体験（高齢者役、介助者、人数が多ければ観察者を交替に行う）
5分	まとめ（感想）

## 【備考】

クラス人数を半数に分けて、次頁の日常作業体験と合わせて体験をする場合の時間目安です。  
事前の打ち合わせで、体験の趣旨に合ったコースのご提案をさせていただきます。

# ボランティア・市民活動センターから一言



高齢者疑似体験は、手足を動きづらくするおもりや、目を見えづらくするゴーグルなどを装着し高齢者の身体的な状況を体験します。そのため、子どもたちに「高齢になると動くのがしんどい」「高齢者＝支援が必要な人」というマイナスイメージだけを植え付けてしまう危険性もあります。しかし、様々な設備や介助の役割の大きさを体感することで、自分や周りの人々がどのように関われば、誰もが安心して暮らせるまちななるのかを考え、思いやりの心を育むきっかけにしていきたいです。

# 児童・生徒の感想



小学6年生	体験をして「高齢者ってこんなに大変なんだな」ということが分かりました。手元が見えにくかったり、きき手が重くて歩きづらかったりしました。 高齢者と会った時、「遅いなあ、まだかなあ」と思っていたけど、体験を通して苦労していることが分かったので、優しく見守ったり手伝ったりしたいと思いました。
中学1年生	体験では、高齢者が普段の生活でどういうことに困るかということが分かりました。特に階段はこけそうになり、不安を感じました。家に帰る途中、どこが危険いかを見ていると、とても多くの危険な場所があったので、もっとバリアフリーな世界になってほしいと思いました。



# 3

高齢者 の理解を深める

## 高齢者疑似体験（日常作業）

学習例	高齢者疑似体験セットを装着した状態で、小さな文字を見たり、小さなビーズに糸を通したり、新聞のページをめくるなど、日常作業を体験する。		
時間	45分（クラス半数で行う場合） 前頁の歩行体験と合わせて行うことをおすすめします。		
講師	ボランティアセンター職員	場所	教室

### 1 ねらい

高齢者の視力・視野の低下や手の感覚の違いを体感し、日常生活での高齢者への理解を深め、思いやりの心や接し方を学ぶ。また、地域の様々な活動で支えて下さっている高齢者に対して尊敬や感謝の気持ちを持つ。

### 2 体験

グループに分かれ、順番に装具を身に着け、細かな作業を体験する。

（作業例）ビーズを箸でつかむ。ビーズに糸を通す。

新聞のページをめくり、そこに書かれてある小さな文字を読む。

画用紙などを用いて、普段との色の見え方の違いを知る。

財布から指定された額の小銭を取り出す。

### 3 振り返り

高齢者の身体の大変さなどを体験したうえで、高齢者に対し、自分たちにどんなことができるかなどを話し合う。

また、高齢者は支えられる側だけでなく、子どもたちの登下校の見守りや、地域の清掃活動等に積極的に参加してくれていることを知り、高齢者に対して尊敬や感謝の気持ちを持つ。

（例）

- ・スーパーなどで高齢者がお金を落としたときは、拾って丁寧に渡す。
- ・視野が狭く、耳が聞こえにくいことから、後方からくる車両の接近に気づきにくいので、自転車でも、近くを通る時は注意する。
- ・地域で活動してくれている方に出会ったら元気に挨拶をする。

# プログラム



時間	内容
10分	導入
30分	体験（グループごとに各作業を順番に行う）
5分	まとめ（感想、質疑応答、補足説明）

## 【備考】

クラス人数を半分に分けて、前頁の歩行体験と合わせて体験をする場合の時間目安です。  
高齢者疑似体験セットを使用するのが初めての場合は、使用説明から入る必要があります。

# ボランティア・市民活動センターから一言



日常作業体験を行うことで、加齢による身体的な変化（筋力・視力・聴力の低下）を知り、身近な日常動作に対する気持ちや身体の状態を高齢者の目線で理解することができます。

そのうえで、自分たちが高齢者に対してどのように接したりサポートできるかなどを、相手の立場になって考えていくことが必要です。

# 児童・生徒の感想



小学4年生	目が見えにくくして、お金を出したり、おはしでビーズをひろって、そのビーズに糸をとおしたりしました。体験をしてみて、これからはおじいさん・おばあさんを助ける活動をしてみたいと思いました。
小学6年生	今回の体験で、高齢者がいつも文字を読むときに、眼鏡や虫眼鏡を使っているのは、文字がかすんで見えにくかったり、目が悪いからなんだと、体験前に心に抱いていた疑問を解消することができました。これからはおばあちゃんの家に行った時は、歩くのを少し手伝ったり、代わりに字を読んだりしたいです。





# 4

高齢者 の理解を深める

## 高齢者疑似体験（買い物）

学習例	高齢者疑似体験セットを装着した状態で、買い物を体験する。		
時間	90分		
講師	ボランティアセンター職員	場所	教室

### 1 ねらい

装具をつけて買い物を体験し、日常生活の行動における高齢者の身体の状態や気持ちについて学ぶ。見えにくい文字、わかりにくい色などについて知り、今後の高齢者との関わり方に生かす。

### 2 体験

事前に渡した買い物リストに沿って、教室内に置かれた商品の名前が書かれたものを探す。全部そろえたらレジに向かい、模擬の硬貨で支払いをする。

コースに階段も含めると、身体の状態がより伝わる（事前に要相談）。

買い物の中身を想定した重りを入れたレジ袋を持ってみる。

### 3 振り返り

買い物という身近な行動での高齢者の身体的な大変さを知り、関わり方や声のかけ方を考え、自分たちにできることは何かを考える。



# プログラム



時間	内容
10分	導入
70分	体験（高齢者役、介助者、人数が多ければ観察者を交替に行う）
10分	まとめ（感想）

【備考】  
クラス単位（人数30人程度想定）で行います。  
高齢者疑似体験セットを使用するのが初めての場合は、使用説明から入る必要があります。

## ボランティア・市民活動センターから一言



買い物体験プログラムでは、コース次第で歩行体験もでき、買い物リストや商品を見ることで、文字や色の見え方を感じることができます。また、レジで小銭の取り出しを行うなど、日常作業体験も合わせて体験することができます。

楽しみながら体験することができますが、買い物ごっこにならないように、事前に目的を明確にすることが必要です。

## 生徒の感想



小学4年生	私は、お母さんとスーパーに買い物に行った時、高齢者がレジでお会計しているときに、「早くしてくれないかな。」と思いながら待っていました。でも、実際に高齢者体験をしてみて、お金を出す時に時間がかかったので、高齢者は大変なんだなと思いました。だから、私のおじいちゃんおばあちゃんのレジの時には手伝ったり、他の高齢者がレジを前で行っていたら静かに待ちたいです。
小学6年生	小銭を取り出すのも、いつもより時間がかかってしまい、おばあちゃんもお金を取り出すのに時間がかかっていたなあと思いました。私もそういうときは、「私がお金を取り出すよ。」と言いたいと思いました。 お年寄りの気持ちになって考えることができる貴重な体験ができました。



# 5

高齢者 の理解を深める

## 高齢者訪問・交流

学習例	高齢者のお宅を訪問し、新居浜の歴史や現在の生活について話を聞く。		
時間	90～120分	場所	高齢者宅・集会所
講師	地域に住んでいる高齢者など		

### 1 ねらい

地域で生活されている高齢者から、昔の新居浜や地域のこと、その方の今の生活や生きてきた歴史を聞き、実際の生活にふれることで、ひとりの地域住民としての魅力に気づき、親近感を持つとともに、自分の住む地域への愛着を育む。

### 2 体験

地域の高齢者のお宅・集会所などを訪問し、昔から新居浜で過ごされていた方に直接お会いして、新居浜の歴史や昔の地域の様子などの話を聞く。  
また、現在の生活の様子を聞き、それぞれの生活を知る。

### 3 振り返り

普段、詳しく話を聞くことがない高齢者とのふれあいを通して、訪問前後のイメージについて感想をまとめる。自分が今できることは何かを考え、地域の中での自分の役割を見つける。

## ボランティア・市民活動センターから一言

核家族化が進む中で、家族以外のお年寄りとお話をすることが少なくなってきました。高齢者が普段どのような生活をされているかと児童・生徒に聞いた際、「優しい」「よく話す」などの明るいイメージもありましたが、暗いイメージ（「1日中1人で過ごす」「足が不自由」など）も多く聞かれました。

実際に高齢者のお宅を訪ね、話を聞くことで、自分と同じように、人それぞれに生活があり、趣味を楽しんだり、友人とでかけて食事をしたりなど、楽しく活動的に過ごしていることも知って欲しいと思います。また、話の中で、今住んでいる地域が昔どんなところだったのか、どんな歴史があるのかを知り、地域に誇りを持つとともに、地域の歴史を築いてくれた方々に尊敬の気持ちを持てるように導くことが大事だと思います。



# プログラム



時間	内容
5分	移動およびお宅訪問時の注意事項を説明
20分	学校から移動 それぞれのお宅や集会所
30分	高齢者から話を聞く (新居浜市や地域のこと、その方の生活の話など)
20分	学校へ帰る
15分	まとめ(感想)

## 【備考】

移動の際は先生もしくは、社会福祉協議会の職員、地域の方など大人と一緒に移動した方がスムーズです。協力者(民生児童委員※1、見守り推進員※2など)への調整も行います。

※1 民生児童委員(民生委員・児童委員)：厚生労働大臣より委嘱され、地域の方々が安心して暮らせるように活動しています。高齢者の見守りや、子育て世帯への支援のほか、生活に関する様々な相談にも応じています。

※2 見守り推進員：在宅における一人暮らしの高齢者が安心して生活できるよう、見守りが必要な方に対する安否確認を行います。



# 児童・生徒の感想

中学2年生	<p>1人暮らしなのにとても元気でした。料理が趣味で、茶わん蒸しや唐揚げが得意料理らしいです。楽しそうに笑顔で話してくださり、私まで元気をもらいました。お孫さんのことが大好きなことが分かったので、私も祖父母と接する時は、祖父母の気持ちを考えて祖父母の好きなことを一緒にしたりして楽しみたいです。ご本人は「元気に過ごすこと」を大切にしているようで、ストレスをためず、周りにいる人の役に立ち、勉学に励み、趣味を楽しみながら生きることをおすすせられました。そのような生き方をしたいと思います。</p>
中学2年生	<p>1人暮らしで寂しいこともあるけど、少しでも長く元気で居られるように、散歩や近所の人との交流をしたりしていました。ただするだけではなく、時間を計って歩いたり、ご飯を食べる時、1人だけ「いただきます。」「ごちそうさま。」と言ったり、暮らしを楽しくできるように工夫していました。「1人だから、自分でできるように一生懸命頑張れる。」と聞き、私は困ったことがあるとすぐ人を頼る癖があるので、直したいと思いました。</p> <p>近所にお年寄りが多いけど、話したことはなかったです。これからは挨拶のあとに、「寒いですね。お元気ですか。」と一言付け加えてみたいと思います。</p>



# 6

障がい の理解を深める

## 障がいって何だろう

学習例	当事者の方の話を聞き、障がいを理解する。		
時間	45分～90分	場所	教室・体育館など
講師	当事者および支援者		

### 1 ねらい

地域で生活している障がいのある方から普段の生活や接し方について学び、「障がい＝個性」と捉え、地域には障がい者をはじめ、さまざまな人が暮らしており、お互い支えあっていることを学ぶ。

### 2 体験

障がいのある方から、実際の生活の様子や周りに理解してもらいたいことなどを話してもらう。また、交流の中で自分で工夫していることや、改善してほしいこと、手伝ってもらいたいことなどを聞き取る。

### 3 振り返り

地域で生活している障がいのある方とどう接すればよいか、また、困っているのはどういう場合で、自分がどのように行動したらよいか考える。

誰もが住みやすい街にするにはどのようなことが必要かを考え、発表し合う。

## ボランティア・市民活動センターから一言

事前・事後学習として、アイマスク体験や車いす体験をすることで、より障がいについて理解できます。また、給食交流などを行うことで、リラックスした雰囲気、普段の生活のお話や食事の際の工夫などの理解も深まります。

その他の交流として・・・

- ・視覚障がいのある方とアイマスクをつけた状態でスポーツ交流
- ・聴覚障がいのある方とジェスチャーゲーム
- ・車いす利用の方と障がい者スポーツ体験 など

# プログラム



時間	内容
5分	導入
30分	講師の話（生活で使っている便利な道具について・困りごとについてなど）
10分	グループワーク （自分たちに何ができるのか・誰もが住みやすい街にするにはどのようなことが必要かなど）
5分	グループごとに発表
5分	まとめ（講師のコメント）

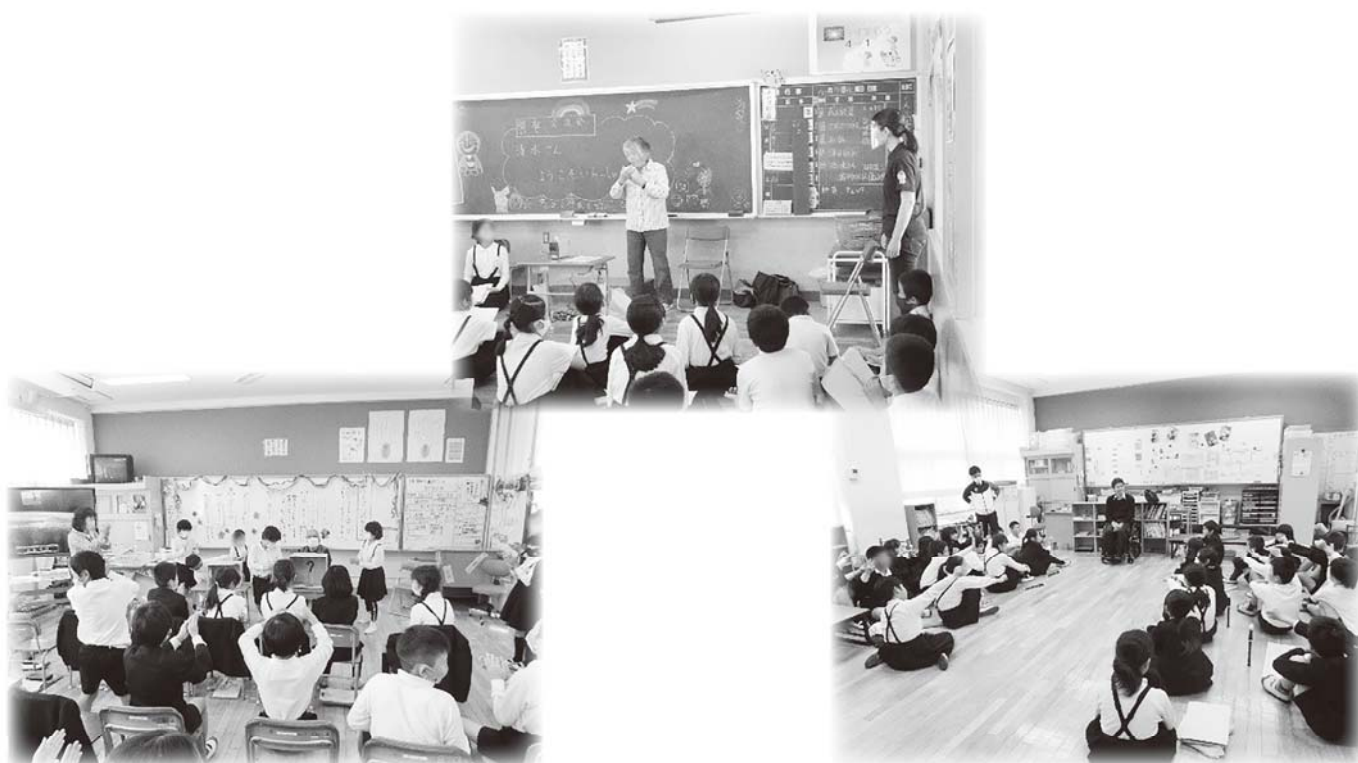
## 【備考】

事前に質問をお預かりすることもできます。

# 児童・生徒の感想



小学4年生	視覚障がいのある方のお話を色々聞いてみて、「目が見えない」ということは、目が見えるのが当たり前になっている私たちからすると、とても大変な事だと思います。しかし、案外、幼いころから目が見えない人からすると、「ただ目が見えない」だけなのかもしれないと思いました。笑顔がとても印象的でした。
中学2年生	私の夢は、障がいのある子どもたちが通う、特別支援学校の先生か、学校の先生になることです。視覚障がい者の方が楽しそうに卓球をしたり、篠笛を吹いたり、笑顔で話している姿を見て、少しでも自分の力が役に立ったらいいなと思いました。このように実際に質問したり、お話を聞く機会はあまりないので、しっかり覚えておきたいです。





# 7

障がい の理解を深める

## アイマスク体験

学習例	アイマスクを装着し、視覚障がいについて理解する。		
時間	45分～90分		
講師	ボランティアセンター職員	場所	教室・階段・体育館など

### 1 ねらい

アイマスクを装着し移動することで、視覚障がいのある方の気持ちを理解する。また、介助の体験をすることで、誘導方法を学び、声掛けなどのコミュニケーションの重要性を学ぶ。

### 2 体験

コースを一人はアイマスクをつけて歩き、サポート側は何も言わず、隣で見守る。その後、介助の方法を学び、しっかり声かけやサポートしながら、同じコースを歩き、声掛けの有無による気持ちの違いを明確にする。

相手（アイマスク着用）の手を引っ張ったり、急に手を放したりすると、相手に恐怖心をもたせたり、怪我に繋がる可能性もあるので、安心して歩けるように正しい誘導方法を学ぶ。

### 3 振り返り

障がいのある方に対して興味を持ち、自分に置き換えて、自分ならどうして欲しいか、どう行動することが大切なのかを考える。

実際の場面で自信をもって行動できるように、定期的に振り返りを行うとよい。

## ボランティア・市民活動センターから一言



人は情報の80%を視覚から得ていると言われていています。アイマスク体験は、「見えないと怖い」→「何もできない」という否定的な印象が残ってしまう危険性があります。そこで、当事者交流を合わせて行っていただくことで、障がいをより深く理解し、視覚以外の感覚を使って、「できる・わかる体験」をしていただきたいと思います。

# プログラム



時間	内容
5分	導入
30分	歩行体験（声掛けなし→あり）
10分	まとめ（感想）
【備考】	

## 児童・生徒の感想

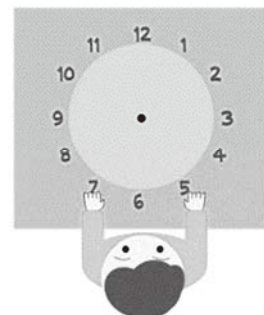


小学4年生	ぼくはアイマスクたいけんをしました。福祉センターの中でろうかやかかいだんを歩きました。1回めは、かいだんでおちかけたけど、2回めは安心して行けました。
小学4年生	アイマスク体験では、どこに何があるか分からなくてこけそうになりました。だから、目の不自由な方は大変なんだなと思いました。ガイドをする時は目の不自由な方が不安にならないようにゆうどうしたいです。

### クロックポジション ～ものの位置を伝える工夫～

机の上を時計の文字盤にたとえ、物が置いてある場所を知らせる方法です。

視覚障がい者が6時の位置にいると考え、「～は9時の方向にあります」「～は4時の方向です」と伝え、何がどこにあるのかを知らせます。



# 8

障がい の理解を深める

## 手話体験

学習例	聞こえないということ・手話体験		
時間	45分～90分	場所	教室
講師	手話通訳者、聴覚障がい者		

### 1 ねらい

聴覚障がいのある方の言語である「手話」を学び、ゲームなどを通して手話を体験することにより、障がいに対する理解を深める。聞こえないということを知り、聴覚障がいのある方の様々な日常を理解し、思いやりの心を育てる。

### 2 体験

ジェスチャーゲームなども用いて、相手に伝えるための方法を学ぶ。  
自分の名前を指文字で表現できるよう練習したり、挨拶などの手話を学ぶ。

### 3 振り返り

手話や聴覚障がいの事を学んで、考えたことや気持ちの変化を共有する。  
また、手話に興味をもってもらい聴覚障がいのある方との関わりに役立てる。

## ボランティア・市民活動センターから一言



手話は耳の不自由な方が「目で見てわかることば」です。相手の立場に立って、暮らしの中にある工夫を探してみると、さまざまな発見があると思います。

相手に伝えたいと思う気持ちを大切に、手話の本などもたくさん出版されているので、図書室や図書館で探して興味を持ってほしいと思います。



# プログラム



時間	内容
5分	導入
20分	講師の話（「聞こえない」とはどういうことか・生活の様子など）
10分	ジェスチャーゲーム（相手に伝える気持ちが大切なことを知る）
5分	手話を学ぶ（あいさつ、指文字、自己紹介など）
5分	まとめ（講師のコメント）
【備考】	

# 児童・生徒の感想



小学3年生	わたしのゆめは、手話つうやくの人になることなので勉強になりました。わたしは、いつも手話の練習をしています。わたしもいつか、手話で話せるようになりたいです。
中学2年生	耳の聞こえない生活での不自由な点や、聞こえる人にとってはあたりまえのことでも、そばに近づいてくる足音すら聞こえないと、いきなり後ろから肩を強くたたかれたりするとかなり動揺する、と言われていました。聞こえているからこそ予測ができて、安全に身のこなしができている私たちの当たり前意識を取り除いて理解しないといけないなと思いました。



# 9

障がい の理解を深める

## 車いす体験

学習例	車いすの部位の名称や用途、乗り方、介助方法などを知り、実際に乗って体験する。		
時間	90分		
講師	ボランティアセンター職員	場所	体育館、学校外周など

### 1 ねらい

車いす体験をすることで、身近にあるバリア（壁）を知る。また、介助の基本を学び、自分が取り組めることを考える。誰もが住みやすいまちづくりとはどのようなものなのかを学ぶ。

### 2 体験

1 時間目は車いすの部位と使い方の説明を聞き、自分で車いすに乗ってコースを進み、障がい物を避ける体験などを行う。（このときに段差があると困ることを知ってもらう。）  
2 時間目は、介助体験でコミュニケーションの重要性を学び、段差の介助方法の説明を聞く。同じコースを介助ありで交代しながら進む。

### 3 振り返り

体験からすべての人が安心して過ごせるバリアフリーのまちづくりについて考える。

## ボランティア・市民活動センターからの一言



車いすは、子どもたちにとって興味深いものだと思います。そのため体験中楽しい乗り物になってしまいがちです。体験の感想が単に「楽しかった。」とならないように、また逆に車いすの大変さだけが強調されて「車いすの方は大変だなあ、自分は健康でよかった。」などの感想も正しい理解とは言えません。

特別なことをしたわけではなく、いつもの風景が車いすを利用することによってどう変わったかを投げかけ、自分の生活する場所にもさまざまなバリアがあることを考えてもらいたいと思います。

※体験の前、もしくは後に、車いすを利用している方のお話を聞くプログラムを設けることにより、理解が深まります。その際、ルートや階段、トイレなどの確認をすることで、学校内の身近な場所のバリアに気づくことができます。

# プログラム



1時間目	内容	2時間目	内容
5分	導入	5分	休憩
10分	車いすの各部位の説明	10分	介助方法の説明
10分	車いすの開閉方法	20分	介助体験
20分	自分で車いすを操作する体験	10分	まとめ（感想）

## 【備考】

事前の打ち合わせで、体験の趣旨に合ったコースのご提案をさせていただきます。

# 児童・生徒の感想



小学4年生	体験をして車いすを使っている方の気持ちがよくわかりました。車いすは、自分で動かしたり、押すことは難しいんだなと思いました。段差のときは後ろの棒みたいなものをふむと車いすが上がりました。今度は、坂道や下り坂でやってみたいと思いました。
小学6年生	私は、車いすはとても簡単だと思っていました。でも、自分も実際に体験してとても難しいことがわかりました。声をかけてくれないと、とても不安な気持ちになりました。でも、声をかけてくれると安心してまかせることができました。

## 車いすの段差の介助の方法

車いす体験では、操作についていろいろなポイントを説明し、実際に操作しながら介助の方法を学習します。



ティッピングバー

### 段差の上り下り

- 【上り】ティッピングバーを踏んで前輪を上げて進み、続いて後輪を押し上げます。
- 【下り】後向きでまず後輪を下ろし、前輪が落ちそうになった所で、ティッピングバーを踏んで前輪を上げたまま後進し、ゆっくりと下ろします。



# 10

人権 の理解を深める

## シトラスリボン

学習例	シトラスリボン作成を通して、人権について考える。		
時間	50～60分	場所	教室
講師	ボランティアセンター職員		

### 1 ねらい

コロナ禍で生まれた差別偏見をなくし、正しい知識を学ぶ。シトラスリボンを作成し、それを人に渡したり、自分が身につけることで、自身も発信者となれることを知る。

### 2 体験

感染症への不安から、嫌悪、差別、偏見が生まれることを知り、正しい知識を持って、感染症や差別意識を防ぐ方法を学ぶ。

シトラスリボンの意味を理解し、自分で作成してみる。

### 3 振り返り

シトラスリボンを人に渡し説明することで、その意味を自分のものにする。また、自身が身につけることで、差別防止の意志を周りに示す。

## ボランティア・市民活動センターから一言

シトラスリボンプロジェクトとは、誰もが新型コロナウイルスに感染する可能性のあるなかで、罹患し回復された方やその家族、コロナに関わる仕事をされている方が、それぞれの暮らしの場で「ただいま」「おかえり」と安心して言いあえる、思いやりある社会を目指そうというプロジェクトです。

社協ではシトラスリボンを広げるための動画も作成しています。授業の様子を撮影したものを動画にまとめて賛同の意を表すこともできます。

今回はコロナ禍による差別を題材にしていますが、他にも差別防止のための様々なプロジェクトがあり、人権を考える入口にすることができます。

# プログラム




時間	内容
5分	導入
15分	コロナ禍での差別について、シトラスリボンの意味についての講義
25分	動画を見ながらシトラスリボンの作成
5分	まとめ（感想）

【備考】  
材料はボランティアセンターで用意します

## シトラスリボンプロジェクトとは？




**1**



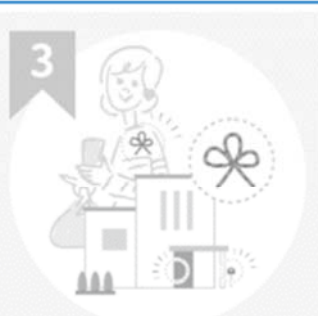
シトラスカラー(柑橘をイメージした色)のリボン・紐などを準備します。リボンの色や材質はあなたの創意工夫で。

**2**




その材料で「地域・家庭・職場(or 学校)など」を示す「三つの輪」をつくれれば、「シトラスリボン」のできあがり。

**3**



このシトラスリボンを身に着けたり、おうちの玄関や郵便受けなどに示してみたりしてください。「元気ですか?」「また会いましょう」のことばとともに贈りあうのもよいかもしれません。

**4**



リボンの画像をSNSで発信することも、このプロジェクトが広まるきっかけになります。  
#ただいま  
#おかえり  
#っていいあえるまちに

引用：シトラスリボンプロジェクト from ehime

<https://citrus-ribbon.com/>

## 動画作成の例



新居浜市ボランティア・市民活動センターの  
YouTube チャンネルで公開しています。



# 11

地域 の理解を深める

## 見守り活動とは

学習例	地域の民生児童委員・見守り推進員などの活動について実際に話を聞く。		
時間	45分程度	場所	教室など
講師	民生児童委員・社協支部役員・見守り推進員など		

### 1 ねらい

地域におけるいろいろな福祉活動やそれを支えている方を知る。自分たちも地域から見守られていることに気づき、地域の一員として自分ができることを考える。

### 2 体験

地域で見守り活動をされている方から、活動の内容や思いを話してもらう。質問も挟みながら自由な形で進行する。

グループで、感想や自分にもできることがあるかを考え、発表する。

### 3 振り返り

地域の方が色々な場面で見守ってくれていることを知り、感じたことや自分にもできることがあるかを考え、発表する。それに対し地域の方から意見をいただき、お互いの思いを伝え合うことで地域の活動を身近に感じてもらえるようにする。

## ボランティア・市民活動センターから一言

地域では、安心・安全のまちづくりを目指して、子どもの登下校時の見守り隊活動を始め、独居高齢者の見守りを行う見守り推進員など様々な方が活動されています。しかし、活動をされている方の話を、実際に聞く機会があまりないのが現状です。

自分の住む地域で、どんな活動が行われ、活動されている方がどんな思いで活動されているのかを知ること、地域を見る目が変わると思います。



# プログラム



時間	内容
5分	導入
20分	講師の話
10分	グループワーク（感想を共有する・自分たちにできることについて考える）
5分	グループごとに発表
5分	まとめ（講師のコメント）
【備考】	

## 児童・生徒の感想



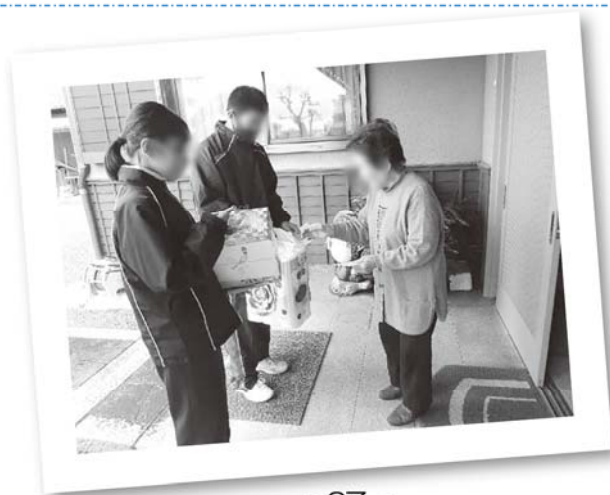
中学3年生	私たちは当たり前で生きてるけど、自分達に関わってくれる人達がいるおかげだと思いました。朝の挨拶や、町の掃除など目立たない所で活動していて、“すごい”と思いました。ちゃんと感謝の気持ちを伝えていきたいです。月に1回集まって会議などを行っていることにも驚きました。感謝の気持ちを忘れないことが一番だと思います。
中学3年生	私たちは本当に地域の支えがあって生きていくところもあるのだなと思いました。家族だけでなく、地域の人にも感謝したいと思いました。

## 講師からの一言



生徒の前で何を話そうかとすごく緊張しましたが、独居高齢者の見守り活動について、話せて良かったです。朝の登下校の見守りでよく会う生徒もおり、会うことができ嬉しかったです。

授業で話をしたいと連絡を受けた時は、私にはできないと思いましたが、地域で支え合っている活動を知ってもらい、大きく成長した時には、自分が生活している地域の活動に参加してくれるような人になってもらえると、とても心強いなと思います。



# 12

地域 の理解を深める

## 地域を知ろう！つながろう！

学習例	地域で活動されている方々を学校に招待し、交流会を開催する。		
学習効果	地域の一員としてできる役割があるということに気づく。		
時間	100分	場所	教室・体育館
参加者	地域の方々 (社会福祉協議会支部、民生児童委員、見守り推進員、登下校の見守りの方など)		

### 1 ねらい

地域の方々とのふれあいを通して、地域の方々を身近に感じることができる。  
自分の住んでいる地域への視点が変わり、新しい発見や人とのつながりが生まれる。

### 2 体験

地域にはどのような活動をされている方がいるのか調べる。  
地域の方々との交流会を自分たちで計画して、開催する。

### 3 振り返り

実際にふれあったことで、どのようなお話が聞けたのか、どのような気づきがあったのか話し合う。地域について詳しく調べてみる。



# プログラム



時間	内容
20分	会場準備（展示物・椅子など）
10分	招待者を会場へ案内
45分	あいさつ 地域の方々との交流（レクリエーション・歌・プレゼント・写真撮影など）
5分	招待者の退場
10分	片付け・休憩
10分	まとめ（感想発表）

【備考】  
地域の方に案内文を送付するなど、事前の準備が必要です。

# 児童・生徒の感想



中学2年生	日頃、お世話になっている地域の方に感謝の気持ちを伝えることができ本当に良かったです。普段はあまり伝えることが出来ないけど、これからも感謝を伝えていきたいです。私も地域の皆さんのように色々な人を助けられる人になりたいです。
中学2年生	私たちはこんなにも、たくさんの人に支えられているんだと、改めて感じました。毎朝、見守り隊として、私たちの安全を見守っていただいたり、地区をまとめてくださったり、私の知らない所で支えてくれていたということに気づきました。 挨拶することには恥ずかしいから抵抗がありました。でも、これからは地域の方に挨拶しようと思いました。そして、地域の一員としての自覚を持ち、貢献できるようにしていきたいです。

# 参加された地域の方々の感想



このような発表会を行うことで、地域の方々の思いが一つにつながる良い機会になると思います。自らが動くことで、輪を広げていくことが真の福祉ですね。今後もこの学習を生かした行動をとれる素晴らしい人になって下さい。

地域の活動を若い人が頑張っておこなうことは頼もしく大変嬉しく思います。みなさんの笑顔がすばらしかったです。ご招待いただきありがとうございました。



# 13

災害 の理解を深める

## 防災について

学習例	平成16年災害を知り、日頃からできる防災対策やボランティア活動について考える。		
時間	45～60分	場所	教室
講師	新居浜防災士ネットワーク、社会福祉協議会職員 など		

### 1 ねらい

新居浜市の平成16年災害の被害を知り、自分が住む地域にどのような災害が起こる可能性があるのか、その時に自分の身を守る方法を学ぶ。また、防災、減災のために日頃から自分ができることや地域のつながりの重要性を学ぶ。

### 2 体験

平成16年災害の写真や動画、その時の様子を聞き、災害を身近に感じる。  
地域のハザードマップから自分の住む地域にどんな災害の可能性があるのかを知る。  
グループワークで、身の回りの危険について友達と考え、クラスで共有する。  
災害時に学生ができることを考える。

### 3 振り返り

家庭に帰り、ハザードマップからわかったこと、防災対策や避難持ち出し袋の準備などを確認し、学んだことを家族と共有する。  
地域の防災訓練へ参加したり、地域の方と防災まち歩きなどを企画してみる。

## ボランティア・市民活動センターから一言

社会福祉協議会は大きな災害が発生した際に、災害ボランティアセンターを立ち上げ、被災地域の方の自宅の片付けなど災害ボランティアのコーディネート役割を担っている組織です。

平成16年に起きた水害では、新居浜市の各所で土砂崩れや大規模な河川の氾濫が起こりました。その時に初めて新居浜市で災害ボランティアセンターが設置され、市内の中高校生を含め大勢の方々が災害ボランティアとして活動されました。当時の資料が多く残っていますので、災害を身近に感じるきっかけにしたいだけだと思います。

南海トラフ巨大地震は新居浜市全土に被害をもたらす想定がされています。災害が起こった場合に、自分や家族の命を守り、周りを助けられるような方が増えて欲しいと思います。

# プログラム



時間	内容
5分	導入
15分	平成16年災害（水害）・南海トラフ巨大地震・災害復旧活動について学ぶ
15分	身近でできる防災対策や災害時に自分にできる事などを話し合う 防災マップなどの教材を確認しながら地域の避難所や通学路の危険について話し合う
5分	グループごとに発表
5分	まとめ（講師のコメント）

## 【備考】

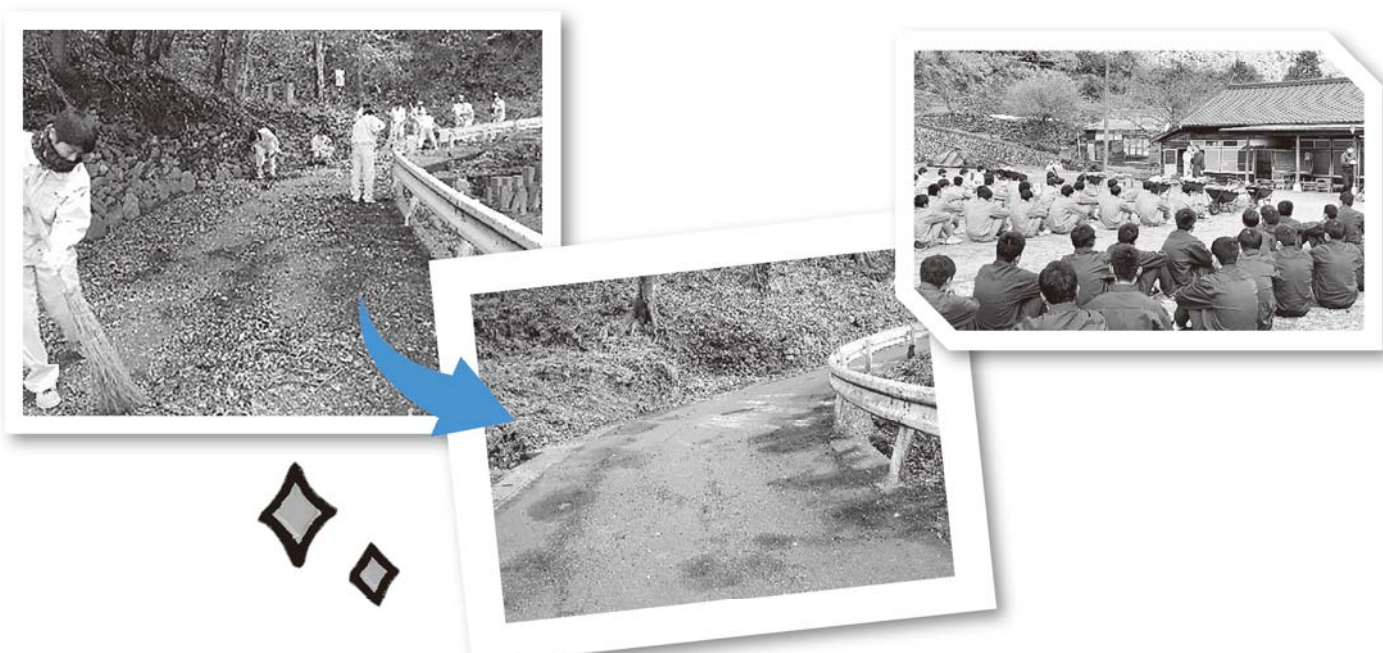
学校で災害や防災について既に取り組みられている部分もあると思います。授業で学習した内容などを、事前に教えていただくことで、学習内容に沿った授業を実施します。

# 新居浜工業高等学校の活動紹介



新居浜工業高等学校は毎年、平成16年災害被災地の立川地区において、ボランティア活動をされています。道路側溝の泥かきや草刈り、清掃により、豪雨災害が発生しないよう、防災・減災に取り組まれています。

高校1年生	今回のボランティア活動は、主にスコップで草やコケを取り除くという作業をしました。すごく硬いものもあり、腰がすごく痛くなりました。しかし、一緒に作業をしていた地域の方から「大変なのにありがとう、これはもう来年しなくていいぐらいかな。」といただき、大きなやりがいを感じました。この経験を生かし、積極的にボランティア活動に参加しようと思いました。
高校1年生	私は初めて災害防止ボランティア活動に参加して、災害が来る前に準備をしておくことの大切さを知りました。葉を寄せたり、土をのけたりすることは大変だったけど、少しでも地域の方の役に立てたなら良かったと思います。また参加したいです。





# 14

赤い羽根共同募金 の理解を深める

## どうなっているの？ 募金のゆくえ

学習例	赤い羽根共同募金の仕組みを学ぶ		
時間	30～40分	場所	教室
講師	新居浜市社会福祉協議会 赤い羽根共同募金担当職員		

### 1 ねらい

赤い羽根共同募金の歴史や仕組み、地域のどのような活動に利用されているかを知る。地域には様々な課題があり、多くの方がそれぞれの立場で福祉活動に取り組んでいることを知り、身近なボランティアとしての募金の意義を理解する。

### 2 学び

赤い羽根共同募金の歴史や仕組み、新居浜市での用途について話を聞く。  
身の回りで赤い羽根共同募金のマーク（使われているところ）を見つける。  
感じたことなどをグループで話し合い、発表する。

### 3 振り返り

新居浜市内で共同募金が利用されている事例などを知ることで、自分たちの身近に赤い羽根共同募金があることを学ぶ。共同募金の時期にはパンフレットなど関心を持って見る。共同募金の意義を理解して募金活動に取り組む。

## ボランティア・市民活動センターから一言



赤い羽根共同募金については、例年各学校で熱心に取り組んでいただいておりますが、どのような活動に使われているかを具体的に知っている方は少ないと思います。身近な活動に募金が使われていますので、自分たちの町をよくする仕組みである赤い羽根共同募金について、理解を深めて、募金活動に取り組んでいただければと思います。



# プログラム



時間	内容
5分	導入
15分	赤い羽根共同募金が集められてから、どのような経過をたどり、どのようなことに利用されているかの説明を受ける。
10分	グループワーク（まちで見かける共同募金のマークなどを出し合う・感想など）
5分	グループごとに発表
5分	まとめ

## 【備考】

事前に、身近なところにある共同募金のマーク（使われているところ）を示し、ゲーム感覚で見つけに行ってもらえば導入がしやすくなると思います。



車椅子の移動車両



災害ボランティア支援



## 4. 物品の貸出について

- ・原則としてボランティア・市民活動センター登録団体、福祉施設、及び行政機関（学校含む）のみ貸出が可能です。
- ・貸出をご希望の場合、必ず事前にご連絡ください。
- ・事前に「活動資材借用申込書」（P.35）をご記入ください。
- ・各資材の使用方法については、ボランティア・市民活動センターまでお問合せください。

### 貸出物品一覧

物品名	数量	物品名	数量
アイマスク	多数	ディスクゲッター9	1
高齢者疑似体験セット（もみじ箱） サイズS、M、L 各2セット	6	スロープボウリング	1
高齢者疑似体験セット（おいたろう） サイズM	6	福祉教育わくわくワーク	10
高齢者疑似体験セット（簡易セット）	6	白杖	7
点字器	44	車いす	多数
難聴体験セット	5	書籍・DVD（ボランティア、手話、 点字、障がい、傾聴、高齢者関係）	多数

### 高齢者疑似体験セットの内容

おもり	足首・手首に負荷をかけ、動作を緩慢にし、加齢による筋力の衰えを体験する。
ベスト	体験者に合わせた負荷をかける。
ひざサポーター	ひざ関節が動きにくくなる状態を体験する。
ヘッドホン	難聴体験により、音の聞き取りにくさを体験する。
メガネゴーグル	白内障、白濁、視野狭窄、加齢黄斑変性による色覚変化とぼやけて見える状態、視野の狭さを体験する。
ひじサポーター	ひじ関節の動きにくさを体験する。
足首サポーター	足首を半固定することにより、つま先が上がりにくい状態を体験する。
杖	身体に負荷がかかることで補助具の重要性を理解する。

確認済 令和 年 月 日	
受付印	返却印

※太枠の中だけご記入ください。

<p>新居浜市ボランティア・市民活動センター</p> <p><b>活動資材借用申込書</b></p> <p style="text-align: right;">令和 年 月 日</p>	
<p>ボランティア・市民活動センター所長宛</p>	<p>団体名 _____</p> <p>申込者氏名 _____</p> <p>連絡先 _____</p> <p>住 所 _____</p>
<p>次の資材を借用したいので申し込みます。</p>	
<p>借用期間 令和 年 月 日 ( ) ~ 令和 年 月 日 ( )</p>	
<p>借用目的</p>	
<p>資 材 名</p>	
アイマスク	(        ) 個
高齢者疑似体験セット	(        ) セット
点字器	(        ) 器
難聴体験セット	(        ) セット
ディスクゲッター9	(        )
スロープボウリング	(        )
福祉教育わくわくワーク	(        )
白杖	(        )



## 5. 福祉教育プログラム申込様式

### 福祉体験学習ボランティア講師派遣依頼書

令和 年 月 日

団体名 \_\_\_\_\_

代表者 \_\_\_\_\_ 様

\_\_\_\_\_ 学校

校長 \_\_\_\_\_ 印

※1つの福祉体験学習につき1枚の依頼書を作成してください。

学 校 名		担当者	
住 所	〒 _____	TEL	
		FAX	
学 年		人数	生徒 名 引率教員 名
希望体験学習 (○で囲む)	当事者交流 ・ 手話体験 ・ 講話 ・ その他 ( ) 高齢者疑似体験 ・ 車いす体験 ・ アイマスク体験		
目 的			
実施日時	令和 年 月 日 ( ) 時 分 ~ 時 分		
実施場所			
連 絡 事 項			

## 児童・生徒ボランティア活動普及事業 実施要綱

### 1. 目的

小・中・高等学校の児童・生徒を対象として、社会福祉への理解と関心を高め、社会奉仕、社会連帯の精神を養うと共に、福祉教育・学習の機会を提供し、体験や交流活動を通して福祉の心を育てることを目的とする。

### 2. 実施主体

新居浜市社会福祉協議会

### 3. 事業の実施方法

社会福祉協議会は、新居浜市内の小・中・高等学校を児童・生徒ボランティア活動普及事業協力校（以下「福祉協力校」という）として指定する。

### 4. 助成金

社会福祉協議会からの活動助成金は、1校あたり年間25,000円を限度とする。

### 5. 社会福祉協議会の役割

- (1) 本事業の全体計画の策定及び総合調整
- (2) 児童・生徒のボランティア活動の場の開拓、受け入れ促進及び連絡調整
- (3) 関係資料の作成、情報の提供
- (4) 事例発表会の開催等福祉協力校相互の交流
- (5) 活動事例集の作成等、結果の取りまとめ
- (6) その他必要な事項

### 6. 福祉協力校における活動

福祉協力校においては、それぞれの地域の実情に合わせ、次の各号の例により社会福祉に関わる活動を行うものとする。

- (1) 広報・啓発活動
  - ・講演会、展示会等の開催
  - ・体験作文、学校新聞等の作成、配布
- (2) 調査・研究活動
  - ・寝たきり高齢者調査、街づくり点検活動等
- (3) 体験学習を目的とした実践活動
  - ・社会福祉施設等での訪問・交流活動
  - ・社会福祉施設等での宿泊を伴う体験活動
  - ・地域内の社会福祉機関・団体との交流活動
  - ・体育祭、文化祭等学校行事への招待・参加
  - ・地域社会への奉仕活動
  - ・清掃・環境美化活動
- (4) 社会福祉関係行事への参加
  - ・ボランティア講座、共同募金活動等
- (5) 協力校相互間の交流
- (6) その他、目的達成のため必要な活動

### 7. この要綱に定めるもののほか、必要な事項は会長が別に定める。

#### 附 則

平成4年4月1日から施行する。

平成18年4月1日から施行する。

平成24年4月1日から施行する。

## 6. 集めてできるボランティア

手軽にできるボランティア活動として、収集ボランティア活動があります。集められた物は、それぞれ団体へ送り、換金され、貴重な財源として有効に活用されています。

集めているもの	集め方	活用方法
切手 (未使用・使用済)	封筒に貼っている場合は剥がさず、切手と消印が全て残るように、個人情報部分のみ切り除いてください	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外支援活動(日本国際ボランティアセンター、ユニセフなど)</li> <li>手紙を書こうプロジェクト</li> </ul>
書き損じハガキ		<ul style="list-style-type: none"> <li>空飛ぶ車椅子活動</li> <li>海外支援活動</li> </ul>
アルミ缶	中を洗い、よく乾かす	市内のボランティア団体活動
毛布	新品または洗濯したもの (汚れや劣化がないもの)	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物保護活動</li> <li>アフリカへ毛布を送る運動</li> </ul>
テレホンカード 図書カード ハイウェイカード オレンジカード QUOカード	汚れや傷・落書きがあるカード、バスカード・コピーカードは対象外	海外支援活動
衣類・タオル・シーツ など(綿50%以上) ※	対象外となるもの <ul style="list-style-type: none"> <li>綿50%以下のもの・デニム</li> <li>下着(パンツ)・布団</li> </ul>	働く障がい者の賃金や運営資金 (地域活動支援センターⅢ型「いぶき」でウエスとして加工・販売)

問合せ：新居浜市ボランティア・市民活動センター (TEL 65-1009)

※衣類などは、新居浜市障がい者福祉センター (TEL 33-3341)





## 7. ボランティアチャレンジ in にいはま

ボランティア・市民活動センターでは、新居浜市内の中学生、高校生のボランティア活動を応援しています。ぜひご参加ください。

### 子ども食堂

遊び相手・調理のお手伝い

市内各所で開催されています。



### 障がい者スポーツ

練習相手・準備片付け

- ①バドミントン
- ②車いすバスケット
- ③その他イベントの手伝い



### イベント

準備・受付・片付け

子供向けイベントや地域のイベントなど、募集があった時はSNSで発信しています

### 高齢者

話し相手・散歩の付添い  
お部屋や車いすのお掃除  
☆市内の高齢者施設です。  
近くの施設を紹介します。

### 実験

高校生の  
のみ

夏休み・イベントでの工作や  
実験のお手伝いです。  
☆愛媛県総合科学博物館  
(土日祝)

### その他

こんなボランティア無いですか？など、お気軽にお問い合わせください。

## 参加者は全員ボランティア保険に加入します！

(学生の保険料はボランティア・市民活動センターで負担します)

ボランティア活動保険は・・・

ボランティア活動中の急激かつ偶然な外来の事故によるケガや、偶然な事故により他人にケガをさせたり、他人の物をこわしたことにより、法律上の損害賠償責任を負った場合に保険金が支払われます。



ボランティア・市民活動センターは、SNSでも情報を発信しています。ぜひご登録下さい。



**Twitter** @Niihama651009VC

「新居浜ボランティア」で検索してください



**LINE** 新居浜ボラセン

公式アカウント「新居浜ボラセン」で検索



**YouTube**

[https://www.youtube.com/channel/UCqJ\\_6RC6frIC22FUB5tF87](https://www.youtube.com/channel/UCqJ_6RC6frIC22FUB5tF87)



QRコードから入れます

社会福祉法人 新居浜市社会福祉協議会

新居浜市ボランティア・市民活動センター

住所：新居浜市高木町2番60号

新居浜市総合福祉センター 3階

電話・FAX：0897-65-1009

E-mail：v-center@n-syakyo.jp

HPアドレス：https://www.n-syakyo.jp/

こころちゃん



【令和3年5月作成】



この冊子は、赤い羽根共同募金の配分金により作成しています

